「おはよう！」の後は、お決まりの朝学習

― 小学部　朝学習 ―

大阪精神医療センター分教室

1　はじめに

大阪精神医療センター分教室の小学部では、学年ごとに月曜日から金曜日まで帯で１時間目(50 分)を朝学習の時間として取り組んでいる。年度ごとの児童の実態によって内容を少しずつ変え、令和４年度からは全学年共通で、朝の会、連絡帳の記入、コグトレ練習、国語または算数のプリント学習、読書タイムという内容で実施している。

2　目的

活動の流れや指導方法を学部全体で統一して毎日続けていくことで、児童が落ち着いて学習や活動に取り組めることをめざす。

3　朝学習の指導について

(1) 全教室のホワイトボードに１時間目の流れを掲示しておく。(図 1)

(2) 朝学習の担当は、普段の担当学年や教科と関係なく、1 週間交代ですべての学年を順にまわっていく。

①朝の会
②連絡帳
③コグトレ
④プリント
⑤読書

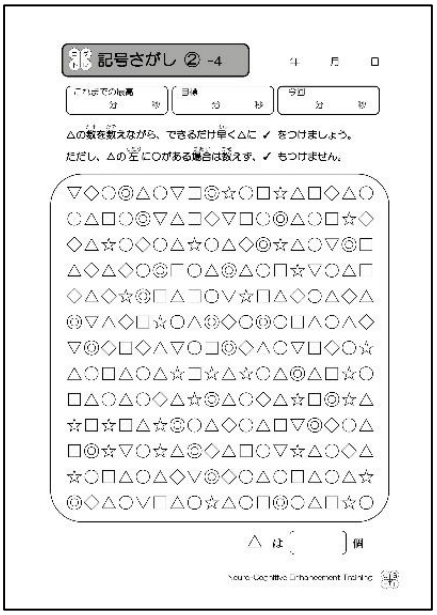
図１　教室掲示

4　朝学習の内容

(1) 朝の会…朝の挨拶、出席確認、今日の予定の確認、質問、終わりの挨拶の順で行う。全教室に司会進行カードを置き、日直の児童がカードを見ながら進められるようにする。

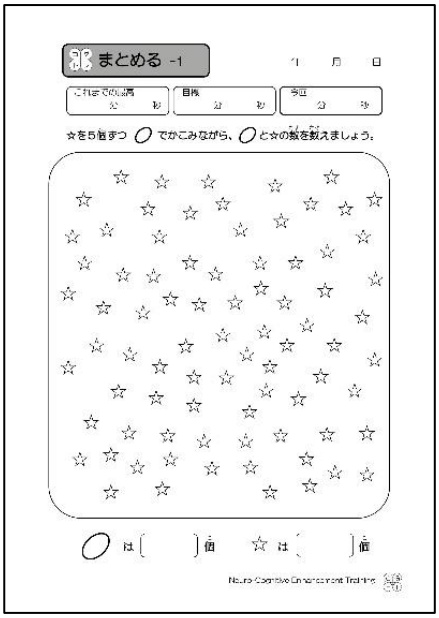
(2) 連絡帳…明日の時間割、持ち物、宿題の有無の順で記入。書き方（日付や項目の順など）を教員間で統一する。

(3) コグトレ…病棟プログラムで行われているコグトレのうち、「記号探し」または「まとめる」の課題を行う。



記号探し…△の数を数えながらできるだけ早く✓をつける課題。(図 2)

図２　コグトレ（記号探し）



まとめる…☆を指定された数ずつかこみながら、囲んだ円の数と、☆の総数を数える課題。(図 3)

図 3　コグトレ（まとめる）

(4)プリント学習…月曜日は特別活動を行い、火曜日と木曜日は国語、水曜日と金曜日は算数のプリントに取り組む。

(5)読書タイム…児童が各自で好きな本を選んで読むか、教員に読み聞かせをしてもらうかを選択する。金曜日は教室清掃を行う。

5　成果と課題

本分教室の小学部教員が感じた成果や児童の様子、課題は次の通りである。

(1)朝の会

・日直として、号令をかけたり会を進行したりすることが苦手である児童が多いので、ルーティンで回を重ねることで、徐々に慣れて、できるようになっていくこともあり、良い取り組みである。

・機械的になって、形だけになっていることもあるので、どこまで指導するか悩むことが多い。

・司会の進行カードを用意しているので、初めてでも誰でもできる。

・友だちや先生の名前を毎日呼んだり聞いたりするので、名前を覚えやすい。

・回数をこなすとスムーズに日直の号令をかけられるようになったり、周りの友だちを見てから号令をかけたりすることができるようになった。

(2)連絡帳

・板書の練習になっており、書字の機会としてよい取り組みである。

・時間割を書くだけなので児童の負担が少ない。

・朝の会後の取り組みにしているが、登校後すぐに書きたがる児童が多い。児童の特性も現れていると思う。

・習っていない、覚えていない漢字でもがんばって書いてみる児童がいる。

・次の日の時間割によって、テンションが変わってしまい、マイナスの行動にはしる児童がいる。

(3)コグトレ練習

・最初は嫌がっていたが、毎日続けるうちにルーティンになってスムーズに取り組めるようになった。

・分教室で練習していることで病棟プログラムで行う本番に自信をもって臨めている。

・病棟プログラムのコグトレの時間に「コグトレ行きたくない」と言う児童が減った。
・おしゃべりなく、取り組むことができている。
・答えを言ってしまったり、正解が気になったりする児童がいる。
(4)プリント学習
・国語と算数の学習は必要不可欠で時数的にもちょうどよい。嫌がっている児童もいるが続けたほうがよい。
・自分のペースで取り組める。無理なく取り組める。
・わからない問題も教員に聞きながら取り組めるようになった。
・「わからないことは先生に聞いていいんだ」とわかる機会になる。
・転入当初は 1 枚 2 枚しかプリントが進まなかった児童が、徐々に集中して取り組めるようになる姿が見られた。
(5)読書タイム
・読書タイムは、自分で読む児童もいるが、教員に読み聞かせをしてもらうことを楽しみにしている児童もいる。
・読み聞かせも含めて、たくさんの本に出会うことができる。
・多動多弁な児童でも、本を開くとその世界に没頭していて、心穏やかに見えた。
・10 分間集中して静かに読むことができる。
・教員が読み聞かせをしていることで、一人の読書が難しくても、耳を傾ける児童が出てきた。

6　まとめ

一昨年度まで、屋外でラジオ体操とランニングを行っていたが、児童が落ち着かない状態となることが多く、令和 4 年度から屋内での授業とした。その結果、トラブルも減り、環境の影響の大きさを実感した。

登校したら宿題袋を教員に出し、今日の日直を確認して朝の会を始め、朝の会が終わるころにはほぼすべての児童が連絡帳を書く準備をしている。毎日登校から 1 時間目まで同じ流れで続けていることにより、教員が声をかけなくても児童が見通しをもって自分から行動している姿が、低学年から高学年まで見られる。1 日の始まりが毎日同じであることで学校生活のリズムが作られる。宿題が、学習する習慣付けのための取り組みであることと同じで､毎朝 1 時間目を屋内でルーティン化した内容にしたことは大きな成果があった。落ち着いて取り組むことが難しい子どもたちなので、毎日同じ活動で始まるということは安定した生活の足がかりとなっている。

また、教員がローテーションで全学年の 1 教室を担当することで、小学部全教員が分教室の児童の様子を知ることができ、共通理解をもって児童に指導で関わりができる。一週間ごとに各学年の担当が変わっていくことで、前と同じ学年の朝学習を担当しても一か月前からの児童の成長を感じられることもあった。

子どもの「おはよう！」の後は、お決まりの朝学習で、今日も一日が始まる。